

# ぶらり訪問<sup>2</sup>

この人と30分



## 「進取」の精神に期待。

起立木工株式会社

取締役社長 高橋雄一郎氏

訪問インタビュー第二回は、地産産業の雄、家具業界のトップメーカー起立木工(株)高橋雄一郎社長。一月下旬、ご多忙の社長室をぶらり訪問。



### プロフィール

大正14年静岡市生まれ・昭和24年早稲田大学卒業・同年起立木工(株)社長現在に至る・この間昭和51~59年静岡県家具工業組合理事長・「私はラジカルなので、誤解を招くことが多い」とはご本人の弁・血液型O。

貴社の方針は?

これまでは、原木の購入から製品の配送までを人に頼らず「自力更生」路線でやってきた。今後共、メーカーとして単品家具についてもっと研究を重ね、独自性を出すことに専念したい。決して大手の下請けにはならないこと。大企業は絶対に儲けさせてはくれないから……。

家具業界における「人」の問題は?

若い人呼び込むには、まず給与、そして職場環境、休暇。初任給をアップし、年功型から職能型に賃金体系を変える。工場を明るく清潔に、休憩室、食堂等の整備も必要。また三年後の週四十時間制を念頭に、現在の二七五日稼働を当面隔週休二日制へが目標。

時短に伴うコストアップ対策は?

設備投資による無人化等、省力化の徹底。これが無理なら一人で二台の機械を操作す

る等従業員協力を得て「作業密度を濃く」すること。そして生産性向上のための「量産システム確立」などか。

個性化の時流と量産との兼合いは?

当社製造部門は七工場あり、高級品、量産と各工場に見合った生産方式を考えている。「高級品」とは価格の高さではなく、消費者が見て価値を認めるものの意。カンバン方式や多品種少量生産はやがて行き着くと思う。

無垢材に対する思いは?

今後も次々と新素材が出てくることは間違いない。パーティクルボード、MDF(中比重繊維板)も使うが、中級以上の家具では表に出る部分はやはりソリッド材でなくては。

針葉樹家具については?

スギ、ヒノキは歩留りが悪く変色しやすい。消費者の厳しい品選びに対し、節も多く、これが模様にならない。しかし、輸入の針葉樹家具は増加

傾向にあり、国内産地一つ位の市場規模を形成しつつある。

業界団体の行く道は?

個々の企業ではできない共同PRや、共済等の福利厚生執行部、事務局はビジョンを示し、強いリーダーシップを発揮すべき。また、組合と行政は一定の距離をおいて接すべきだと思う。

木材業界に向けてひとこと。

①新素材の開発、②流通経路の短絡化によるコストダウンの二点を要望したい。家具産地として静岡と競合する九州の大川地区には、素材を東南アジアから直接買い付け、韓国で製材し、日本に仕向けている木材業者もある。商社、問屋から仕入れたものだけでなく、マージンを乗せるだけでなく、自らリスクを背負い、海外に出掛け、新たな未利用材を持ち込むとか、新しい板材を開発するなど、特に若い木材業者の方の進取の精神に期待したい。(文責 編集室)